

第2回「通知表（票）事故調査委員会」 会議録

日時 平成23年11月29日（火） 15:00～17:10

場所 小田原合同庁舎 2G 会議室

出席者	委員長	野中 陽一	横浜国立大学准教授
	副委員長	前田 輝男	教育長
	調査委員	森戸 義久	小田原市立国府津小学校長（小学校部会進行）
	〃	野崎 裕司	小田原市立国府津中学校長（中学校部会進行）
	〃	平野 真弓	小田原市立新玉小学校教頭
	〃	小野 弘之	小田原市立城北中学校教頭
	〃	久保寺 仁	小田原市立富水小学校総括教諭（教務主任）
	〃	石井 朝方	小田原市立千代中学校総括教諭（教務主任）
	〃	佐々木 篤	小田原市立三の丸小学校教諭
	〃	瀬戸由里子	小田原市立酒匂小学校教諭
	〃	加藤 直樹	小田原市立城山中学校教諭
	〃	北村しのぶ	小田原市立酒匂中学校教諭
	教育委員	山田 浩子	教育委員長職務代理者
	〃	萩原美由紀	教育委員
	事務局	三廻部洋子	教育部長
	〃	西村 泰和	教育指導課長
	〃	長澤 貴	教職員担当課長
	〃	栗畑寿一郎	指導・相談担当課長（全体進行）
	〃	田中 修	指導主事（司会）
	〃	鈴木 一彦	指導主事
	〃	堀 賢一郎	指導主事（記録）

○資料確認

1 開会

2 あいさつ 野中委員長

3 前回の協議概要（栗畑担当課長）

前回は、第1回目ということで記載ミスの分類と発生原因、校種別のミス分類、具体的な手立てを協議した。事務局であらかじめ作成したミス分類をもとに、記載ミスの項目別に協議をし、「出欠席」については、小学校と中学校の出席簿が違うことがわかり、通知表記載ミスの原因としては、パソコン入力ミスもあれば原簿記載ミスもあることやデータの一元化がされていないことも確認された。次に「特別活動・学校生活の様子について」は、通知表作成のための入力が中学校では担任だけでなく副担任も行うことが多く、担任としては副担任に入力してもらったものをしっかりと再確認する必要があること。入力文字数が制限字数より多いと、プレビューでは枠の中にあっても実際の印刷では最終行が印字されないということ。最終的には手渡すものを確認すれば気付くであろう、担任として手渡すものを見ていればこんなことは起きないという確認。次に「評価評定について」は、大本の評価をした担任や教科担当がまずしっかりと評価をしていることが大前提で、次にそのしっかりと評価を入力する際に起きるミスを防ぐ手立てについては、中学校では学校ごとにシステムや

ソフトが違うこと、小学校では統一したシステムを使っているものの、観点の重み付けがあることでミスを生じたり、学年ごとに違うシートについて、違う学年のシートを立ち上げてミスにいたってしまったということからのやはり単純ミスであったり、中学校では各観点別評価から評定にいたる部分での確固とした信頼ある評価とすることが大前提であり、この部分は保護者として先生方を信頼している部分でありながらも言いたくても言えない部分であるということを確認した。その後、小学校と中学校の学校種別に市販ソフト導入の是非について協議し、小学校での意見は、今の共通システムの導入によって本当に効率化したのかの検証が必要、さらにはそのシステムの準備やトレーニングが十分であるか。さらに、システムを使う先生方にはパソコンを使いこなす個人差があるはずで、余裕を持った準備が必要ということ。中学校では、小学校と違い統一したシステムではなく学校独自で開発したものが引き継がれているため、転任すると今までのノウハウが使えなくなり、一から学習し直さなければならず、そのトレーニングの時間確保がもっと必要という意見。小学校と同様に各学校共通のシステム導入をすべきであるという意見だった。

4 協議

【記載ミス再発防止策の具体的手立てについて】

事務局から提案した小学校用と中学校用のチェックシートをもとに序盤は小学校、中盤は中学校、終盤は共通する内容について協議した。

【野中委員長】 今回の協議の柱はミスをなくす具体的な手順について検討することが中心となる。

資料「通知表のパソコンによる作成について」の3ページ小学校、4ページ中学校のチェックシートで現実的なチェックが可能か。また、ミスが「0」になるかという視点で検討する。児童・生徒・保護者が通知表を手にしたときに確認する手段と学校がどのように説明責任を果たすかを検討する。このようなミスは基本的に「0」にしなければならない。

【事務局】

チェックシートは訂正版と表記のあるものを使って説明する。

このチェックシートは、それぞれの段階で項目、チェック内容を誰が行うか、行ったかをチェックできるようにしてある。

担任・学年・管理職という流れが考えられるが、管理職のチェックは、最終のものという意味で右端とした。

通知表作成手順(資料5ページ)とチェックシートを見やすくするため、原簿をB、個人票をC、修正した個人票をD、台紙に貼り付けたものをEとする。

【野中委員長】 大きく訂正されたところはどこか。

【事務局】

評価・評定では学年のチェックを観点別評価及び評定に妥当性があるかとした。それは、他のクラスの授業を見ていく中でお互いに意見交換しながらチェックをしている。また、評価から評定への移行の確認も行っているから。

個人票では、入力段階でチェックされていれば、各項目に入っているかというチェックで済むし、これが終わってれば文章の誤りを次にチェックすればよい。個人票以前の段階で管理職のチェックが入るので個人票での管理職のチェックは除いた。

【野中委員長】

学級担任は7回、学年は4回、管理職は3～4回のチェックをすることになるが、今までの作業行程とかスケジュールを考え、できないチェ

- ックを入れても意味がない。効率よく確実にできるという視点やどうしてもチェックをしないとれる場合は付け足す必要があるかという視点で検討してほしい。
- 〈佐々木委員〉 チェック項目が多くなるほど最終段階に向けて慎重さに欠けてくるのではないか。もっとシンプルなものにすべき。
C個人票のチェックの段階ではプリントアウトしたもので入力枠に入っているか、誤字脱字がないかだけチェックする。
E完成版の最終チェックの段階は、貼り付けたものをチェックするのではなく、修正をしてプリントアウトしたものを貼り付ける前にチェックして出来上がったものを台紙に貼り付けるほうが、張り直すことを考えると効率的だと思う。
- [野中委員長] 完成版の最終チェックは貼り付ける前にしなければならないということか。
- 〈佐々木委員〉 そのほうがいいということ。
C個人票のチェックの印刷ミスとEの入力忘れはほぼ同じなので一緒にできないのか。
- 〈佐々木委員〉 C個人票のチェックでOKのものは貼り付けるということ。
[野中委員長] Eの段階では所見が増えている。Dで所見のチェックが入るが、その前の段階で全部チェックする必要があるか。ないとチェックが行き届かないということがあるか。
- 〈瀬戸委員〉 従来型から Excel シートを導入したことで効率化ができたのか時間的余裕ができたのか、勤務校で聞いたが5分5分という感じだった。従来型は小さなスタンプを押していたことを考えると一覧表や通知表の作成は効率化されたという意見と、チェックを繰り返すことで時間がかかっているという意見がある。一つひとつスタンプを押したほうが確実ではないかという極端な声もあるが、これでは、効率化ということにならない。また、効率化を図った部分がチェックの回数が増えたことで元に戻ったら意味がない。
- 〈久保寺委員〉 教務の立場から、このチェックは細かくできているが6回の時間を確保するのは厳しい。
そこで、AとBの原簿の作成までをひとくくりにして一覧表ができた段階で担任・学年でチェック。所見も入った個人票を一覧表と管理職がチェック。修正したものをプリントアウトしてチェック。完成版という4段階でよいのではないか。
- [野中委員長] 小学校ではこのチェックは一斉に時間を取って行っているのか。
〈久保寺委員〉 学年単位で時間を設定してチェックをしている。
[野中委員長] 学年単位でこの日の何時から何時にチェックをするという設定をしているが、提案されたすべてのチェックの時間設定をするのは厳しいということ。そういう現実的なことを考えると少しくくりを大きくして時間を確保したほうがいいということ。
- 〈佐々木委員〉 チェックリストをチェックしていくのはたいへんだらうと思った。しかし、ここにあるチェック内容は基本やっていること、すべてやっていること。出欠席に関してはチェックへの意識が低かったと思うが。各段階で担任は〇〇をチェック、学年は△△をチェック、管理職は□□をチェックと示したほうがよいのではないか。

- 〈久保寺委員〉 原簿作成までに〇〇をチェック。個人票では何をするか、修正した完成版を管理職までチェックし、貼り付けたものが名前と合っているかは担任・学年にというようにしていけば日程的に可能になる。大体3週間の目安になる。
- [野中委員長] 修正版の前の段階までやっている、または修正版までやっているということか。
- 〈瀬戸委員〉 担任として、自分たちは今まで、こういうことに気をつけてやってきた。明記するとこれだけの項目になるということだと思う。
本校の教務が後期の作成に向けて「通知表作成の流れ」の日程で計画した結果、ほぼ従前どおりなのがわかった。しかし、個人票の作成8日前から完成版のチェック5日前まで3日間しかないということになると、実際今回も休日1日出勤してチェックしたので日程的に厳しい。本当にこの段階で管理職のチェックを入れるのであれば担任にもう少し早い提出を求めることになると言っていた。
- [野中委員長] 管理職のチェックは置いておいて、担任の手持ち資料から入力するときに担任以外の確認作業は行っているのか。今のシステムは観点別評価を入れれば評価が出ますね。この観点別のための小テストやノートなどの評価結果の記録は、かなり私的なものなのですが、担任以外がチェックしているか。
- 〈瀬戸委員〉 していない。これはAの段階のこと。
- [野中委員長] 担任が一覧表を作るわけだから、その段階での転記のミスは担任レベルでしかチェックできないということ。
- 〈瀬戸委員〉 そのとおりで、Aの手持ち資料からの入力の段階では他の人のチェックは入っていない。
- [野中委員長] B手持ち資料との照合という作業はしているのか。
- 〈森戸委員〉 厳密なチェックは難しいが、みんなで持ち寄って意見交換する中で学年内での機会はある。
- [野中委員長] 単学級は担任だけとなる。自分がつけて自分でチェックは意味がない。自分が付けたものと入力したものを第三者と確認するのが本来必要なこと。成績に関していうと小学校は難しいと思う。だから、やっていきますと言い切られると保護者として聴きたくなる。
今のシステムだと観点別評価を入力すれば評価が出るので入力されたあとは変わらない。プログラムのミスか消してしまう以外はほとんどミスはあり得ない。公表された成績のミスは少ないが、出席の割合から成績もあるのではないかという不信感はあるのではないか。効率化は必要だが、中学校はもっと深刻。
- [前田副委員長] Aのところで手持ち資料の確認と児童保護者への確認はしていないから新たな提案でしょう。健康観察簿と出席簿は目的が違うから、中学校のように常時出席簿に付けていくということを徹底すればよい。特別活動は子どもに聞くは情けない。委員カードやクラブカードがあるから、このチェックシートから今やっていないことを削除していけばいい。評価・評定は割合があまりにも違うなどチェックしている。Bのところで出席簿、特別活動、氏名印のところを管理職までする必要があるのか、私はいらぬと思う。一覧表まで担任が責任を持って、ここでのチェックは評価・評定、所見の特に学習の記録に命をかけて

- 記入している。文書表記するところは保護者の関心も高い。だから、ここは今までどおり力点を入れてくれればいい。A・Bの段階では担任、担当が、必要に応じて学年で責任を持ってやればいい。
- [野中委員長] A・Bは担任の作業、実際学年チェックするというのでひとくくり
にできる。印刷されているかどうか、項目が埋まっているかどうか最終
確認できればいい。担任がやったものを学年チェックをどこまでや
るか、最終的な所見をどこまで管理職が行うかということだと思
うが、管理職の立場では・・・。
- 〈森戸委員〉 言葉の確認をしたい。原簿・個人票という言葉を使っているが、大き
く、一つは一覧表、成績一覧表がある。出欠席もA4版に8人、特別
活動・所見もA4版6人の一覧表が出る。
- [野中委員長] 個人票ではなく、それぞれの一覧表なのですか。一覧表が原簿なの
ですか。
- 〈森戸委員〉 このまま学校に出たら混乱する。チェックするのは個人票でなく一覧
表。担任が入力まで責任を持ってする。管理職はプリントアウトした
一覧表をチェックする。訂正箇所にも再入力し、チェックしてプリント
アウトする。個人票は見えているかということをチェックする。B・
Cのところをシンプルに。
- [野中委員長] 一覧表を手持ち資料・出席簿と管理職がチェックすることになってい
るが、しているか。
- 〈森戸委員〉 無理。
- [久保寺委員] 手持ち資料と一覧表のチェックはしていない。出欠席は出席簿が出席
簿として機能していない。入っているかどうかのチェックだったので
ミスがあった。係・委員会・クラブも児童に反省などに記入させたも
のと照合をさせていなかったからではないか。チェック方法と内容を
明確にすればよいと思う。
- [野中委員長] 今の説明だと、手持ち資料からの入力の段階でミスが多いということは、
A・Bは一緒にできないということですね。そこに、手持ち資料（も
と）と入力したデータを第三者と複数でチェックしない限り誰もミス
を発見できないということ。
- 〈野崎委員〉 中学校なのでちょっと違うかも知れないが、教科担任の手持ち資料か
らの入力を複数でチェックしなければ信頼される評価にはならない。
教科担当が入力したものを他の教員と読み合わせをする必要があるが、
時間が確保できていなかったことが評価のミスにつながっている。こ
こをしっかりとやらないと評価評定のミスは防げない。中学校の
方が時間がかかる。小・中である程度共通でやらなければ。出席簿と
突き合わせて入力しているがそこでチェックをしておくことも大事。
- [野中委員長] 言葉の統一をしてもらおう。担任・教科担任レベルの手持ち資料から通知
表ソフト・一覧表への入力チェックをしないと行けないということ
だが、本当にできるか。
- 〈小野委員〉 各教科で付けたものを昔は各科採点表というものに表し、それを、ク
ラスごとに集約したものが成績一覧表となり、それは公簿扱いで1年
間保存となる。最近は、各科採点表の部分が電子化され一覧表に直接
貼り付けているので、各科採点表と一覧表を照らし合わせるという作
業を入れてもいいのかなと思う。

- [事務局] 文書規定では、1年間保存。出席簿と指導要録は5年間保存となっている。
- 〈小野委員〉 一覧表まででミスがなければ、そこから個人票になるので、一覧表作成までのチェックが重要なのではないか。
- [野中委員長] 事務局は、用語の統一とどの段階で何をすればよいかをわかりやすくして再提案する。項目の細分化がされすぎている箇所はまとめる。ここまでの話をまとめると、C以降のところはかなり圧縮できる。そこまでの段階で正確ならば、PCに入った後の処理だから目で確認できる。問題は所見のところ。次回までに修正案を。この他に小学校で何かあるか。
- [前田副委員長] 特にE・Fは大事。最後のプリントアウトしたもので保護者や児童・生徒に渡るものだから。
- 〈小野委員〉 E・Fの段階では管理職が必ずチェックをしている。はり間違いもあるので。
- [野中委員長]
[事務局] それでは中学校に移る。4枚目になります。事務局から説明を。
6ページの作成手順をご覧ください、小学校と同様に原簿からBCDEと同じように記号をふってください。今回のミスの傾向、手持ち資料の段階と入力でのミスが多かったのでチェック表を作成した。細かい指示等が書かれていないのは「通知表作成の流れ」の中に表してある。それぞれの欄には、活動が書かれ完了したら◎でチェックしてもらうようにしてある。使い方ですが、中学校は担任だけでなく副担任や学年部長など複数が関わるので、拡大し掲示して視覚的にも確認をしてもらうようにしてある。
- [野中委員長] 第一印象は、なぜ小・中でこんなにも違うのか。欄はわかるが流れがわからない。中学校の先生どうでしょう。
- 〈北村委員〉 正直に小学校を見た後だと、どこに目をやったらいいのかわからない。こんなにも型式が変わるものなのだという感想。
- [野中委員長] 私も率直にそう思う。
- [事務局] 左側は評価・評定に限定している。中学校は、評価評定は教科担当が入力までするので分けて表し、教科担当が手持ち資料を入力し読み合わせが終わったら◎でチェックとしてある。
- [野中委員長] 評価評定の1組・2組と書いてある資料名に漢字テストと書いて、入力・読み合わせが終わったらチェックするという使い方をするのですね。
- [事務局] 実際に学校で使うときこの部分の表は大変欄が多くなることをコンパクトにしてある。
- [野中委員長] 教科担当がチェックするということが全体としてまとまらないということか。
- [事務局] 小学校は基本、担任が進めていくが、中学校は評価の段階で10人の教科担当が関わるので、教科ごとのチェックが必要。今回はA4サイズにまとめた。
- [野中委員長] 私が国語担当だったら教科と担任のところをチェックするということが。副担任は別のシートでチェックするということが。
- [事務局] 評価は10人が関わるので、右側と分けないとチェックは進まない。右側の部分が担任、副担任の役割になる。

- [野中委員長] 本来は2つの流れがあるということ。中学校で意見を。
〈加藤委員〉 小テスト・定期テストなどの資料名が入って、データを入力したことを原簿と確認するということですね。
- [前田副委員長] 今回ある学校で小テストの点が入っていなかった。これはこの段階のミス。複数で確認をしないとミスは防げない。
- [加藤委員] 自分のつけているレポートなどの点を入力するとき複数ですると安心感があるが、相手の確保が現実的に難しい。隣に座っている人に読み合わせをお願いするというのが最初の段階にあると理解しているが、体制づくりが必要。
- [事務局] 今回のミスを防ぐためには、そこからやっていただかないとミスは防げない。野中先生のおっしゃっていたのもこの段階でのミスはどうするかということなので。
- 〈加藤委員〉 自分は、教科担当はそこが始まりなので確実に行っていきたいという思いがある。自分では見直しをするが、現実的に学年を1人で教えているから、他の先生をつかまえてちょっとというのは難しい現状がある。また、ミスを防ぎきれないかな。
- [野中委員長] PCに入力する場合は他教科とどうやって共有するか。
〈加藤委員〉 各教科で付けて、一つのシートに貼り付ける。
- [野中委員長] コピー&ペーストするという。危ういな。
〈加藤委員〉 成績の付け方も教科によって違うので。
- [野中委員長] 誰かが連結しなければならないし、クラスがずれたなども誰もチェックできない。
〈小野委員〉 一覧表でチェックしていく。他の教科と極端に違うとわかる。
- [野中委員長] 管理職のチェックはそれぐらいしかできない。微妙なところはできないということ。
〈小野委員〉 前後期を引き算するようにしておくとか評価の2段階ちがいは疑問に思う。
- [野中委員長] 今までチェックが入らなかったのは、手持ち資料から原簿を作成する段階。ここでチェックをして、読み合わせて必ず2人でやる、何をチェックするかを明確にしないと。中学校では作業する時間を設定しているか。
〈野崎委員〉 設定している学校とない学校がある。一斉に確認する時間を確保する方向にある。
- [野中委員] 重要なチェックの場面では時間を確保して一斉に行うということを明記していくこと。チェックを細かく明記するか具体的なチェック方法を表す。原簿の段階は少し細かくなっているが。次は担任のフローを見ていきたい。
- 〈石井委員〉 担任と教科というわけではなく、全く違う作業を並行して表しているところに難しさがある。左側は担任がやらないのではなく、評価は全員教科担当なので全員が出す。評価を出すのは通知表とは別の作業で教科担当がチェックする表が一つできる。これは通知表の前の段階で終わっている作業。右側は通知表を作る作業で担任、副担任という立場で全員が関わるものなので、分けないと意味がわからなくなってしまう。A4版2枚にしてもらい、左側（成績一覧表）が終わったら右側の作業に入っていく。

- [野中委員長] 中学校の先生方はどうか。
- 〈北村委員〉 どこを見ていいかわからないと言ったが、A4版の中にまとまっている準備の日程であるとか段階が分けられていくことが別々に分けられていることで作業がスムーズなることがわかった。
- [野中委員長] つまり中学校は教科の学習に評価に関する所見はない。
- 〈野崎委員〉 総合的な学習の時間だけ。
- 〈小野委員〉 数年前まで調査書のミスが多かったが、最近は減った。それは、事前に生徒に確認をさせるから。評価・評定の部分は凄く力をかけている。所見も複数の目でチェックしている。生徒が確認できる場所は事前に見せて確認をすればよいのでは。本校では後期からやる。
- [野中委員長] 中学校では、調査書は事前に生徒・保護者に確認してもらっている学校がほとんどか。
- 〈野崎委員〉 事前開示にあたらないようにすれば可能。全校ともそうしないとミスは防げない。
- [野中委員長] これが児童・生徒・保護者が直接チェックするという一つの方法だと思うが、評価・評定はできない。これは例えば個人面談の時に事前に見せることもない。
- 〈野崎委員〉 そう言う場合とか、この時期の3年の面談では評価・評定は出ているので、事前に知らせてある。これをもとに進路面談をしている。
- [野中委員長] 今のところ中学校の特に入試関連のところでは、そこでの保護者あるいは生徒が確認できるという体制はできている。今までの話だと、教科の流れ、左と右は分けて考えた方がよさそう。作業の時期のズレもあり関わる人も違う可能性があるということ。この表を見ると最後の段階は集約されている。個人票・最終版。ここは両方併せたものの最終チェックがいいということでのよろしいか。最終的には修正したら確認。
- [前田副委員長] 中学校は校長印を押すんですね。最終版の時に管理職が押印する。
- [野中委員長] それでこれはいいと、最終版で見渡す。管理職が入っているのは評価・評定の原簿のところにも入っているが。
- 〈野崎委員〉 成績一覧表のチェックということになる。
- [野中委員長] 課題として残されたのは、手持ち資料から原簿のところはどう対応するか。入試のところでは手厚くされているが、それ以前をどうするかということ。これで2枚に分けた訂正版を再提案でよろしいか。意見が多く出たので、学校で意見を収集して事務局に連絡をして、分かりやすい見やすいものを作らないと使わなくなったり、甘くなったりということになる。
- [萩原教育委員] 通知表作成の流れの原則に「通知表作成にパソコンを用いて作成することを可とするかについては、学校ごとに定めるとする。」とあるが、PCに自信がない先生がいても、学校がPCにしますといたらPCで、手書きはできないのか。
- 〈森戸委員〉 小学校では校長会で様式を決めているが、作成方法は手書きでも可。
- [萩原教育委員] 今回たくさんのもので出たことは、PCについて行けない状況でもやらざるを得ないのではないかと、先生達をフォローする時間をとってソフトを確実に使いこなせるような研修会を開催したらどうか。
- [野中委員長] 次回の議題でもあるが、システムを導入したときはサポートと研修

と、最初はトライアル・準備期間が必要だったが、今までの話を総合すると十分ではなかったということになる。その点が拙速すぎたのか。実感として効率化をしたのかというときに、先生方が少し効率化した、楽になった、他のことに活かすことができると思えるシステムを導入しなければ効果はない。次回全体的な校務の情報化について議論いただきたい。教員のICT活用能力は年度末に自己申告だが調査している。教員がICTを活用する能力は学習指導でも校務でも求められている能力。そこに課題があるなら教育委員会が研修をするなどしなければならない。

[萩原教育委員] 先生方の声を拾い上げた方がいいのでは。自分たちで苦手だとはいいにくいから、無記名アンケートをした方がいいのでは。こういうところが使いにくい、こういうところがわかりにくかったという声を集めたらどうか。

[事務局] 小学校は校長会が導入したので教育委員会は取っていない。中学校は別々なので直接的なアンケートはしていない。

[萩原教育委員] 今回のミスが出たことへの声が聞こえてこない。

[事務局] 今回の事故の発生後、PC操作についての調査はしている。どのような状況で起きたのかというものはある。

[野中委員長] 通知表作成のシステムを導入しての調査ということですか。

[萩原教育委員]
〈森戸委員〉 システムを使ってみてどうだったかということが見えてこない。ほとんどがPCのレベルのミスではない。PCの扱いの能力が低いのでミスが起きたというわけではないので分けなければならない。システムはExcelで作られているのでその周知は低かった。平成22年度から希望制で導入し、その時は、三の丸小学校で研修会を行った。そして平成23年度に全校で導入し、段階を追ったつもり。学校によってはA4版4枚ぐらいの資料があるが全員にマニュアルまでは用意しなかった。ソフトは作ったが、研修が各校に丸投げだったのは反省している。Excelへの習熟度の差かと思う。

[野中委員長] 次回、校務支援システムについて議論したいと思う。校務の情報化という考え方から行けば教育委員会が整理も含め研修も含め主導するのが基本。学校単位での導入やサポートのない状況での導入はあり得ない。

〈小野委員〉 理科と国語ではワークシートが違う。統一して整理していかないと。

[加藤委員] こういうふうなことをチェックするとなると相当な時間が必要、朝から晩まで土・日も部活動等で疲れ切っている。そのような中で、これをするとなるといつやるんだということになる。どこかを切らないと。

[野中委員長] ここでは難しい話。何が重要かということ考えたとき、このような問題が生じたときに、学校が保護者や社会への信頼を回復するためには、何にもましてこの課題に取り組むための時間の確保を各学校が工夫してすることが本来の姿。時間の確保は学校側の事情なので管理職が相談して行うものだと思う。残り少しだが、前回も意見が出たが文部科学省から出ている「児童・生徒の学習

評価のあり方」にもあるが、「児童・生徒や保護者への評価結果の説明の充実が重要である。組織的に学習評価に取り組むことが重要」だが、中教審から出ている。「情報通信技術の活用として学習資料の共有化や電子指導要録の導入」などがある。小学校のシステムには要録まで入っているが。

- [事務局] 要録の様式は教育委員会から提示しているがPCとの連動は考えていない。
- [野中委員長] 様式のデータは配布している。それに準じた様式を使用している。つまり、本当に効率化をするなら通知表と指導要録を連動させる。そのためには学校単位ではなく共通のフォーマットで共通のやり方でやるのが基本。それは、教育委員会が校務の情報化をどう進めるかということにつながる。保護者の立場であったら、実際出欠席のミスが多ければ、成績も違うのではないかと保護者が大部分ではないか。それをどうやって信頼を回復するかというとミスをなくす手だてだけでいいのか。私は不十分だと思う。中学校では生徒に説明するということが出たが。
- 〈野崎委員〉 成績をきちんと説明できるということ。面談等の中で説明する。各教科のコメントももらうので、通知表が保護者と学校のいいコミュニケーションツールになるようにすること。ただ配るだけでなく、それを通して子どもの成長を願うための、そういう機会を増やす。そのためにはきちんと時間を割くことが信頼の回復につながる。
- 〈瀬戸委員〉 高学年の時、通知表を渡すときに見せながらミニ面談をするようにして励ましたりアドバイスをしたりして渡した。
- 〈久保寺委員〉 保護者会でどういう規準でという説明をし、学年で統一して資料の提出をしている。
- 〈瀬戸委員〉 夏の教育相談で評価規準の一覧表を配布している。
- 〈北村委員〉 教科コメントを用意して面談で口頭だが必ず伝えるということを各学校が取り組んでいる。また、教科担任として、こういうことを実施してこうなったら観点の評価がこうなるということをきちんと説明して、子どもが学習活動をしたときにわかるのが評価だと思うので心がけている。
- [野中委員長] 目標に準拠した評価なのでどこの学校でも到達度は同じ。学習指導要領に基づいているので規準自体が違うのはおかしい。中学校ではこの評定値が数式にあてはめられて入試に使われる。1点のミスで合否が変わることがある。評定そのものへの不信感を払拭するのはかなり大変だと思う。今までやることはやってきたということだが、これだけ大きなことになったら学校側から誠意を見せない。
- 〈石井委員〉 教科通信を出している。観点別評価はわかりにくいので、この観点は何を見ているかという資料を出している。
- [野中委員長] 中学校はやっていますよね。小学校はどうか。
- 〈久保寺委員〉 たぶん、やっているところは少ない。
- [野中委員長] でも、小学校も6年生の私立入試もあるし、それを見ているし、学校での学習活動への評価を伝えるものだから、それがどうつけられたかをきちんと説明するということは必要。保護者は言いにくい。この成績違っているのでは？とは保護者は言えない。説明責任は果たします

よ、と言ってもそれは保護者は言いにくい。面談時はその場では思うことがあっても言いにくい。帰ってきて子どもと見て会話をして疑問がわいてくる。

【萩原教育委員】 中学校は三者面談で子どもがいるところでは、なお聞きにくい。教科の説明を全部してほしい。

【野中委員長】 その辺に今回のことを契機にどのように答えるのか委員会としての提言を盛り込まないといけない。最終回に提案をするので信頼回復のための手立てを盛り込めれば。市販の校務支援ソフトの是非は3回目にまわして、導入によって何が変わるのかななどを協議し、チェックシートの再提案を協議してわかりやすいものができれば。教育の情報化に関する手引きの10章が配られているが6章もぜひ見ておいてほしい。